

設計者も工務店も、時代の変わり目に立っている。

時代の転換期に立って

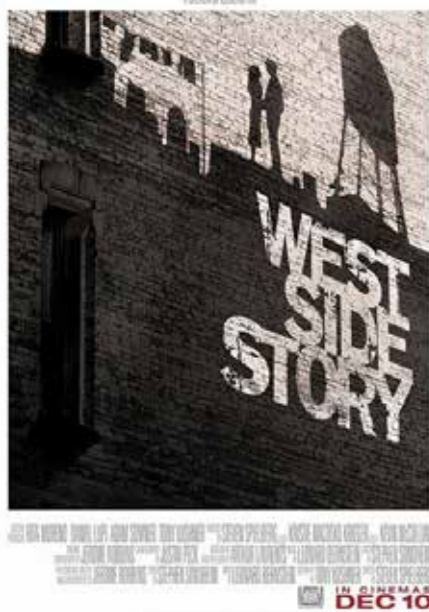
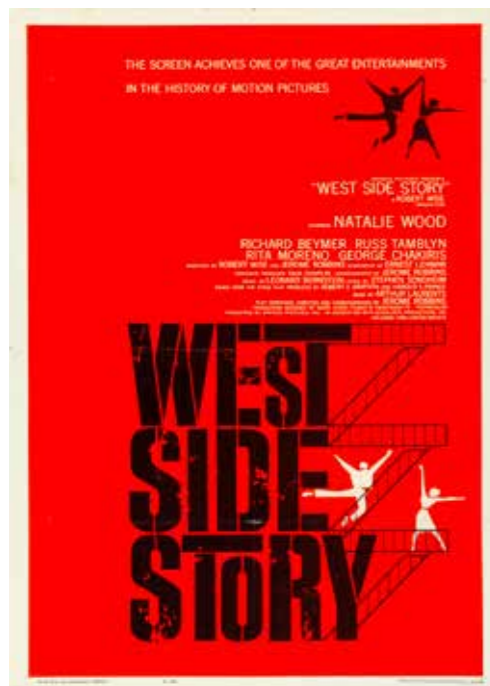
●セミナー企画者の立場から 文・小池一三

私は浜松を拠点に仕事をしています。東京まで1時間半、京都までは東京より早く着きますが、この時間は本を読んだり、一眠りする貴重な時間になっています。新幹線のない時代は、東京も京都も一泊が前提でした。

今、計画が進んでいるリニア新幹線は、東京-名古屋間を40分で結び、JR東海が公表している「環境影響評価書」によると、N700系「のぞみ」に比べCO₂の排出量は4.1倍になります。川勝静岡県知事が南アルプスの山中を抜けるトンネルに文句を付けているのは「土中の環境」問題であり、水問題ですが、私自身は、リニアによって今の新幹線は在来線になることに湧き出てくるような愉快を覚え、それは、コロナ禍のあとは速いとか、便利とかの価値が意味を持たなくなるのではないかと予感によります。

それで、ふと思い出したのはルイス・マンフォードが1938年に著した『都市の文化』(鹿島出版会 生田勉訳=1974年)という本です。アメリカの大都市が、爛熟の果てに衰退に陥ることを予見していて、分厚くて理屈っぽい本が意外と面白くて、ドキドキしながら読みました。今、中国は新幹線の延長で日本に勝った、と言っているしやっています。けれども今、少しも悔しいと思わない自分があります。次は、リニア新幹線をめぐる鞘当てが始まるでしょうが、そんなことはどうでもいい話に思えるようになりました。

最近、フランク・ロイド・ライトとマンフォードの書簡集を読み直しました。この往復書簡は、マンフォードが『都市の文化』を著した12年前から交わされ、ライトが亡くなるまで33年間続きました。開始は、ライトが出した一通の手紙から始まりました。当時のライトは多難な時期にあり、少壮の批評家のマンフォードに語りかけ、一致するものを見出したかと思うと対立し、断絶を挟みながら、相寄る魂の響き合いが2人を結び、思想の交友としか言いようのない関係を重ねたのでした。私はこの書簡集から、現代文明と自然と人間に対する見方・考え方の真底にあるものに改めて目を開かれ、バンデミック後に向かう姿勢について思いを深くしました。

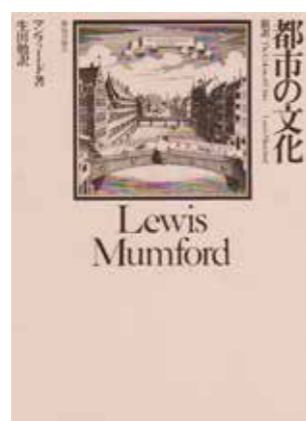


●2つのポスター

赤いのが前のもので、黒いのがスピルバークのポスター。

アメリカのミュージカル映画『ウエストサイド物語』が日本で上映されたのは、ルイス・マンフォードの『都市の文化』の訳本が出たのと同じ年。この12月10日に、スピルバークによる「ウエストサイド・ストーリー」リメイク版が公開されます。

予告編を見る限り、ニューヨークのダウンタウンは前のものより荒廃している印象を受けました。



日本での発行年 → 1961年



日本での発行年 → 1959年

「住まうということは建物の中だけではなく、建物から見える景色とともにあり、屋外での生活も住まうことの一部である。」
最近の住まいは、

「住まいがその箱の中だけで完結してしまっているかのようだ。」

泉幸甫「未発表原稿」より

●パネラー紹介



泉 幸甫(いずみ こうすけ)

建築家。泉幸甫建築研究所代表。日本大学客員教授。ぼくが目白でやった「Apartment 鶉(じゅん)」のような事例は、これから地方でこそ可能性がある。このような仕事をやりませんか。きっと楽しいはず!



Apartment 鶉(じゅん)中庭。(写真/小林浩志)

Apartment 鶉(じゅん)は、東京豊島区の閑静な土地に建つ集合住宅(アパートメント)です。泉さんは「集合住宅と言えば、マンションのように箱を積み重ねたものをイメージしやすいけれど、このような集合住宅も可能」だと書いています(『建築家の心象風景①泉幸甫』風土社刊より)。

都心にあって、このようにゆったりとした空間を生むのは、土地の有効利用から見ると正解でないかも知れないけど、人間は何も箱の中に詰め込まれて住まなくてもいいわけで、それが事業計画的視点から見て可能であり、オーナーと入居者がそれを了とするならやれることだ、と泉さんは書いています。

最近の超高層マンションの逆を行くものですが、しかしこれは都心にあって稀有な事例であって、森ビルなどのオーナーに稟議書が回されたとしたら、おそらく「なんとまあ酔狂な」と棄却されることでしょう。目白の学習院にほど近いところに建つ、この集合住宅に案内を受けた私は驚きを覚えつつ、考え方も方法も実に真つ当なもので、東京では無理でも、地方なら可能なのでは、と一縷の望みを感じました。この集合住宅の見学のセミナー参加者は、目を白黒しながら見入っていました。

ネーミングとされた「鶉(じゅん)」は、訓読みではウズラと読みます。漢和辞典によると、【キジ目キジ科の鳥。尾短く、全体赤褐色で黄白色の縦斑と黒斑とがある。草原にすむ。その卵はスーパーなどの卵売り場で売られている斑模様の小さい卵】と記されていました。

それを音読みをしている意味と意図を考えると、面白いことだけど、私の関心は、このような真つ当な考え方に立った事例が、地方において競って建てられたら、日本の田園居住の一大変化を呼び起こすに違いない、という点にあります。土地だけを取り出せば、適地は少なからずあるわけですから。

・・・目覚めよ、諸君。

2021秋の設計セミナー募集要項

【参加費】 1,000円/人(税込)

【お申し込み】

■ 右記QRコードより、お申し込みください。

■ 町の工務店ネットのWEBサイトからも、お申し込みいただけます。

<https://machi-no-komuten.net/>



<お問合せ>

一般社団法人 町の工務店ネット

〒432-8044 静岡県浜松市中区南浅田2丁目2-1

TEL.053-570-9001 FAX.053-570-9007

info@machi-no-komuten.net

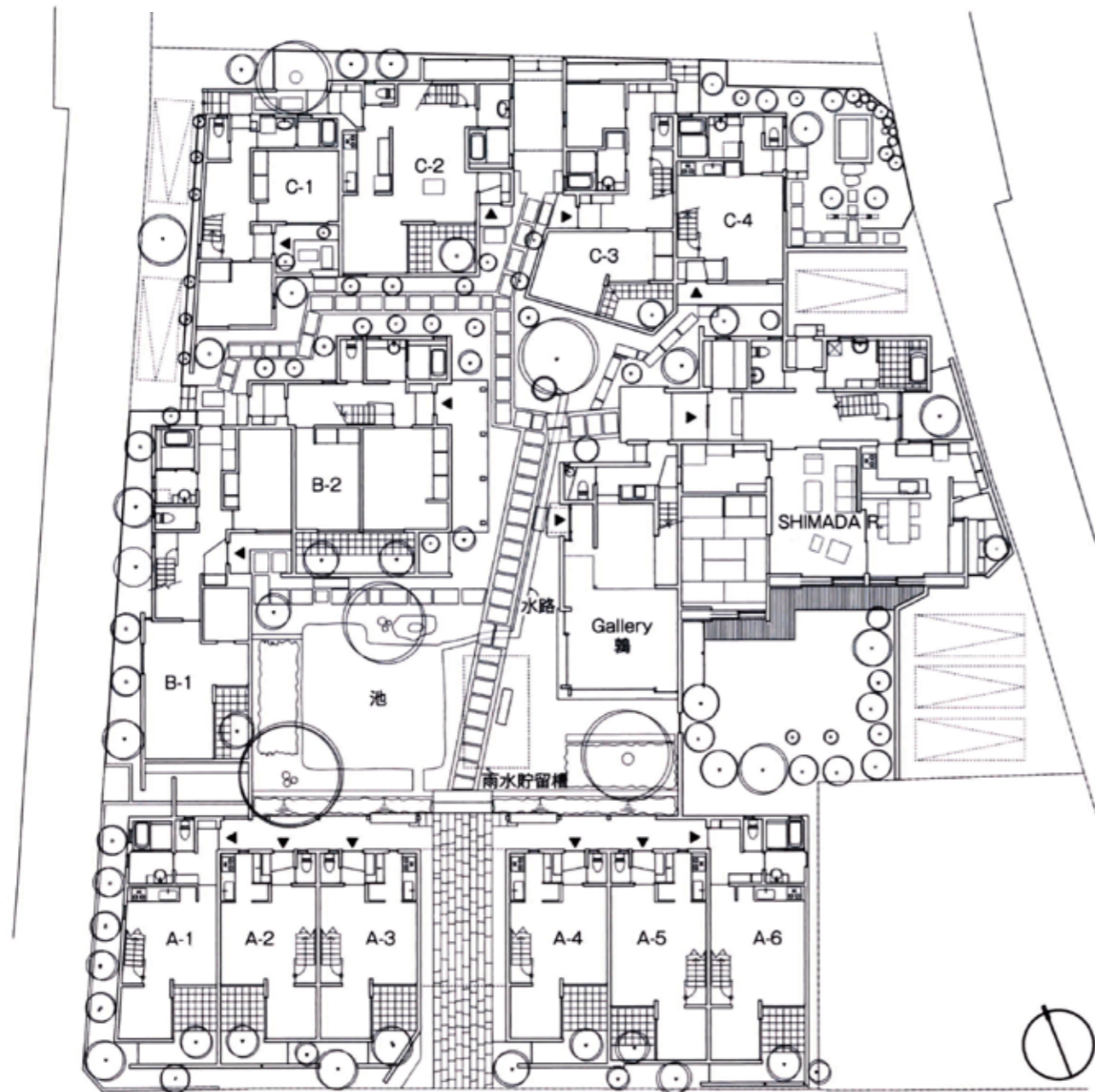
町の工務店ネット

検索

Apartment 鶉 平面図

(設計/泉幸甫建築研究所 写真/小林浩志)

1階平面



2階平面

